

了解是友好的桥梁

小田真璃奈（大阪府）

大家下午好，我叫小田真璃奈。相信在坐的各位一定都喜欢旅游，我也一样！我在中国四川留学的时候，去过很多地方，比如：气势雄伟的乐山大佛，三国时的古街武侯祠和锦里，还有因为高原反应而让我痛苦不堪的九寨沟。当然，我还去了一个特别重要的城市——重庆。

我对重庆的第一印象就是“山好多呀！”，“山城”这个名字果然是当之无愧。走在重庆的街道上，路边的一个个山洞吸引着我，那些山洞用做小卖部、汽修站，还有地铁站等等。我当时还以为这边的人不是很富裕，所以在山脚下打洞做生意，用来维持生活而已。

可是，后来才发现，那些山洞其实是二战时期修建的“防空洞”，当时中国政府在重庆，于是日本军队就对重庆进行了大规模的长期轰炸，不加区别的狂轰滥炸夺去了无数人的生命……哎，悲伤的故事就暂时不说了。原来我并不了解重庆的历史，只是为了开心来玩儿，我对自己的无知深深地感到愧疚！呆在重庆的几天，防空洞到处可见，那些战争遗留下来的痕迹让我的心情十分复杂、沉重。

我在四川留学的那段时间，有一次这样的经历：那是留学结束的时候，在坐车去机场的路上，司机师傅偶然聊到了“日本”，他说：“日本人好凶，好坏，日本不好！”，那时我不知所措，连话都说不出来了，就要下车的时候，我鼓起勇气告诉他：“大叔，

我就是你刚才说的好坏的日本人哦！”话音刚落，他吓了一跳，连声说：“啊？！日本人啊？！哎哟，不好意思啊！我没想到啊！欢迎你来中国！欢迎！欢迎！”他知道了我是日本人，也没有什么不礼貌的表现，却欢迎我，这到底是怎么回事呢？我愣住了。他接着说：“我刚才那么说呀，是因为你们在战争的时候实在是太凶了，太可怕了。国家之间还是有矛盾，但是人民之间的交流没有问题啊，欢迎你！”下车的时候，司机还亲切的提醒我：“行李不要忘在车上了哟，路上注意安全，欢迎下次再来中国旅游。”

光阴似箭 岁月如梭，“二战”已经过去70年了。中国朋友一直铭记着那段悲惨的历史，但真正面对日本朋友的时候，却总是很友好。因为他们也清楚地知道，人与人之间的情感才是最真实的东西！而我们的未来正是建立在人与人之间最真实的情感之上的，而不仅仅是越来越遥远的历史！虽然历史不容改变，但是我们可以用行动去捍卫和平。我相信，无论是中国人还是日本人，其实都明白，只有两国人民友好相处，才能够创造更加美好的明天，会为两国乃至世界人民带来更多的幸福，会让世界在和平的道路上前行！世代友好下去，是中日两国人民的心愿！能为中日友好贡献一份力量，这就是我的梦想！我要为梦想的实现而努力！

谢谢大家！

繋げよう友好ブリッジ

小田 真璃奈 (大阪府)

こんにちは！みなさん、旅行は好きですか？きっと皆さんも同じでしょうが、私も旅行が大好きで、四川での留学中にも様々な場所に足を運びました。例えば、壮大な楽山大仏、三国志以来の歴史がある武侯祠や錦里、高山病に苦しめられた九寨溝などです。また、「重慶」という重要な都市にも行きました。

私の「重慶」という街に対する第一印象はその山の多さです。「山城」という別名も頷けます。重慶の街を歩いていると、道沿いの「山洞」が目につきました。それらは売店や、車の修理所、さらには地下鉄の駅に使われていました。初めは、ここの人たちは貧しい為に、山の麓に穴を掘って商売をすることで、なんとか生活をしているのかな、と思っていました。

しばらくして、それらの山洞は実は、第二次世界大戦時にできた防空壕だと知りました。当時の中国政府は重慶に置かれており、日本軍はこの重慶に対して長期にわたり大規模な爆撃を行い、その無差別爆撃はおびただしい数の人民の命を奪いました。このような悲惨な話は簡単には言葉にできません。重慶の歴史を知らずに、「旅行気分」でやってきてしまった無知な自分にとっても恥ずかしくなりました。重慶で過ごす間、至るところで目に入ってきた防空壕という、戦争がこの街に残した傷跡は、私を複雑で重い気持ちにさせました。

四川に留学中、1度このようなことがありました。留学を終えて日本に帰る日のことです。タクシーに乗って空港に向かっていく間に、運転手さんがたまたま日本の話題に触れて、「日本人はほんとうに悪い奴らだ！日本人はむごい！日本はダメだ！」などと言いつつ出たのです。その時、私はどうしたらいいかわからず、とりあえず黙っていましたが、タクシーを降りる間際に、思い切っておじさんにこう言ってみました。「おじさん！私ね、さっきおじさんが言っていた、すごく悪い日本人だよ！」それを聞いて、おじさんはとてもビックリしました。「え？まさか、日本人だって！？いやー、これは失礼！中国へようこそ！ようこそ、

ようこそ！」日本人だと知ると、それまでと違って「ようこそ」とまで言い出すおじさんを不思議に思い、私は唖然としました。おじさんは続けて言いました。「私がさっきこう言ったのは、日本が戦争のときにとっても残虐で恐ろしかったからだ。国と国同士は衝突してしまうこともあるが、人と人の交流にはなんの問題も無い！君を歓迎するよ！」おじさんは更には、タクシーを降りるときに「車内に荷物を忘れて帰っちゃだめだよ！帰り道は気を付けてね！また中国においでね！」と温かい言葉を掛けさせてくれたのです。このことで、私は日中両国の歴史と友好についてより深く考えるようになりました。

光陰矢の如し、戦争が終わって、既に70年の月日が経ちました。友人である中国の人は、ずっとあの悲しい歴史を忘れはしません。けれども、いざ日本人と向き合う時には、いつも友好的です。なぜなら、人と人の間の感情こそが真実のものであると、はっきりとわかっているからです。未来は、遠くなっていく歴史の上だけではなく、人と人の間の真実の感情の上こそ築かれていくものではないでしょうか。歴史を変えることは許されないけれども、自らの行動で平和を守り、戦争を避けることはできます。日本人であろうと中国人であろうと、両国の国民同士が友好的に仲良くして初めて、もっと美しい明日を生み出すことができ、日中両国、ひいては世界中の人々により多くの幸せをもたらし、世界平和へコマを進めることができるということを、本当は知っていると思っています。これからもずっと友好的であり続けることは、日中両国民の願いです。日中友好に貢献すること、これが私の夢です。夢の実現のため、努力していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。